

静岡県議会だより

令和4年度県議会だより題字コンクール 特選作品 作者/杉田 咲季さん(静岡市立高校)



- 1面 新春の御挨拶
12月定例会ダイジェスト
- 2~3面 ビックアップ本会議
- 4面 ビックアップ委員会
傍聴案内
県議会トピックス
写真コンクール[冬の部]入選作品
県議会クイズ
県議会だよりに寄せられたご意見

令和6年1月28日(日)



令和4年度県議会だより写真コンクール 冬の部特選「冬青空へ」

撮影者/山口 勉さん(三島市)

撮影地/御殿場市

新春の御挨拶



静岡県議会議長 中沢 公彦

元日に発生した能登半島地震により、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された全ての皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。また、被害を受けた皆さまの安全と一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行し、新型コロナ対策は「有事」から「平時」の対応に転換し、社会経済活動が正常化の方向へ動き出しました。また、インバウンドも回復基調となる中、富士山静岡空港の国際線や清水港等の国際クルーズ船の受け入れが再開されています。

本年は、浜名湖花博2024が開催されます。花緑の素晴らしさを実感できる植栽や、花緑と先端技術との融合を体験できる展示を多くの皆さまに楽しんでいただければ幸いです。

一方で、長引く物価高騰により、県民の皆さまの暮らしは依然として厳しい状況に直面しております。

県議会におきましては、県当局とも連携し、喫緊の課題である物価高騰対策を推進するとともに、皆さまの生活や企業活動をしっかりと支え、安全・安心な地域づくりに全力で取り組んでまいりますので、相変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

12月定例会ダイジェスト

12月定例会は、12月1日から12月21日までの21日間開催しました。

開会日に、知事から令和5年度静岡県一般会計補正予算案など42議案が提出され議案等の説明があったほか、継続審査となっていた令和4年度一般会計歳入歳出決算など17件の決算を認定しました。また、総務委員会及び文化観光委員会委員長が、閉会中に継続調査した「東アジア文化都市2023」に関連し発展的に継承する拠点として三島市内に置きたい旨の知事の発言」について調査結果の報告を行いました。

12月6日の本会議では、知事に対し発言の訂正等を求める決議を全会一致で可決しました。

5日間にわたる代表質問および一般質問では17人の議員が登壇し、知事の政治姿勢や令和6年度当初予算編成方針、リニア中央新幹線に関する県の対応など県政全般にわたり活発な議論を交わしました。12月12日には、国の補正予算に対応し物価高騰対策等に取り組むための2件の追加補正予算案が提出されたほか、選挙管理委員会および補充員各4人の選挙を行いました。

その後、7つの常任委員会で議案の詳細な審

査を行い、12月21日の最終本会議で常任委員長が審査結果報告の後、討論を経て採決を行いました。また、国に対する4件の意見書案が提出され、全て可決しました。

※「知事の発言」に関する決議の概要は2面をご覧ください。

可決した主な議案

◆ 令和5年度一般会計補正予算
424億6100万円

- 県立特別支援学校の改修、長寿命化対策
● 障害者支援施設の整備の支援 (ほか)
- 生産性の向上と成長力の強化
<19億5400万円>
● 農業用施設・設備整備の支援
● 木材生産の効率化に向けた取組の支援
● 県立高校のICT機器等の整備
● 介護福祉士修学資金の貸付原資の追加造成 (ほか)
- 当初予算編成後の事情変化
<56億円>
● 人事委員会勧告を踏まえた給与改定
● 美術館跡地の利活用計画策定
● 食肉センターの再編整備 (ほか)

主な事業

- 物価高騰対策
<72億2700万円>
● 特別高圧受電事業者の電気料の支援
● 農畜産業や漁業者の燃油・飼料購入費の支援等
● 医療、介護、児童福祉施設、私立学校への支援
● 地域公共交通事業者の車両維持経費の支援
● LPガス料金の負担軽減
● 子ども食堂の運営支援 (ほか)
- 県民の安全・安心の確保
<27億8000万円>
● 防災、減災対策の推進
(道路、河川、砂防、港湾ほか)

意見書・決議(件名)

- ◎ 診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬及び保育等の公定価格の適切な改定を求める意見書
- ◎ 地方空港の国際定期路線再開に向けた支援の強化を求める意見書
- ◎ おたふくかぜワクチンの早期定期接種化を求める意見書
- ◎ 認知症との共生社会の実現を求める意見書
- ◎ 「東アジア文化都市2023」に関連し発展的に継承する拠点を三島市内に置きたい旨の知事の発言」に関する決議

全文はこちらをご覧ください



県議会ホームページのご案内

議会の日程や質問議員・項目、インターネット中継、キッズサイト、議員の紹介、本会議や委員会の会議録などを掲載しています。



インターネット版県議会だよりのご案内

パソコンやスマホでもご覧いただけます。(音声による「声の県議会だより」もあります。)



県議会公式X(旧Twitter)のご案内

議会の情報をいち早くお届けします。





「知事の発言」に関する決議の概要

「議案に対する各党派等の賛否」については、[こちら](#)



■決議の要旨

知事は「三島を拠点とした東アジア文化都市の発展的継承センター」、「詰めの段階」との発言を速やかに訂正するとともに、知事としての発言の重みを十分に意識し、今後は決して軽率、不用意な発言をしないよう改めて求める。

全文は[こちら](#)をご覧ください▶



■経緯

- ・県内商工会議所会頭との懇談会で、知事が「東アジア文化都市2023に関連し発展的に継承する拠点を三島市内に置きたい。国の土地を譲っていただく詰めの段階に入っている」旨を発言(10月12日)
- ・総務委員会及び文化観光委員会が閉会中調査を行い、知事の発言は不用意であり詰めの段階と言えるものではないことが判明
- ・総務委員会が知事へ発言の訂正等を申し入れ(11月29日)
- ・知事が発言の訂正はしない旨を本会議で説明(12月1日開会日)
- ・発言の訂正等を求める決議案が本会議に提出され、全員一致で可決(12月6日質問初日)
- その後の代表質問において、知事が「継承拠点の件は白紙とする」旨を答弁

ピックアップ 本会議

12月定例会本会議の質問と答弁から

代表質問



伊藤 和子
(ふじのくに県民クラブ)



江間 治人
(自民改革会議)



一般質問



桜井 勝郎
(無所属)



岩田 徹也
(自民改革会議)



伊丹 雅治
(自民改革会議)



野田 治久
(自民改革会議)



鈴木唯記子
(ふじのくに県民クラブ)



天野多美子
(自民改革会議)



伊藤 謙一
(自民改革会議)



盛月 寿美
(公明党静岡県議団)



田中 照彦
(ふじのくに県民クラブ)



良知 駿一
(ふじのくに県民クラブ)



良知 淳行
(自民改革会議)



中田 次城
(自民改革会議)



落合 慎悟
(自民改革会議)



佐野 愛子
(ふじのくに県民クラブ)



杉山 盛雄
(自民改革会議)



※二次元コードから各議員の質問の録画中継をご覧いただけます

行政

信頼喪失への対応

Q 知事の不適切な言動による信頼喪失への対応と、総務委員会の申し入れに対して発言の訂正をしない理由は、知事としての言動の重みを自覚し自らを強く戒め、県民の意見に一層耳を傾け負託に応えられるよう努力する。総務委員会の申し入れは真摯に重く受け止めるが、構想を示すのは県政を預かる者の仕事の一部であり、私の発言は思いを語ったものである。県議会の決議をいただく状況になったことについて心よりお詫びし、東アジア文化都市継承拠点の件は白紙とする。

安全・安心

避難情報の精度向上

Q 災害の危険が迫った際に、避難行動を促すためには、避難情報の精度を高める必要があるがその取り組みは、

A 土砂災害警戒情報は、予測対象範囲を従来の5キロ四方から1キロ四方に細分化することで「空振り」の改善が見込まれるため、令和6年度から運用する。洪水予報は、県内322カ所の観測地点の水位データの蓄積を続け、河川ごとに水位上昇などの特性を分析し、水位予測の精度向上を図る。国の水位予測等の技術開発を注視し、県管理河川への導入を検討する。

知事の退職手当

Q 1期目の退職手当は選挙公約に従い辞退し、2、3期目は受け取った。4期目を受け取るうとする根拠は、

A 退職手当の取り扱いについては県民の理解を得ることが大切であると考え、県内各分野の代表者で構成される県特別職報酬等審議会に諮った。審議会からは「受け取ることとした上で、与えられ

災害時におけるペット対策

Q ペット同行避難に関する体制整備への取り組みは、

A 避難訓練や防災講習会等で、同行避難に必要なペットのしつけやペットフードの備え等を啓発してきた。今後、保健所職員による自主防災組織等への説明やペット避難スペースの開設マニュアルの普及等を行う。令和7年度開設予定の(仮称)静岡県動物愛護センターでは、避難所での鳴き声等のトラブルに対する調整やペット飼育のサポー

教育

教員の人員配置の拡充

Q 教員の欠員等、義務教育の現場は危機的状況にあるが、人員配置拡充の考えは、

A 国に対して改善を強く要望する一方、35人学級実現のための教員配置やスクール・サポート・スタッフの全校配置、共同学校事務室の全市町配置に加え、ICTの活用や部活動の地域移行等教員の負担軽減を進めている。産育休等の欠員補充については、教職員人材バンクの活用を強化していく。新年度当初は欠員なくスタートできるよう最大限の努力をしていく。

ふじのくに国際高等学校

Q 高校の魅力や特色がどう認知されているか。また、令和8年度導入予定の国際バカロレア教育の展開は、

A 中学生と保護者対象の説明会には延べ1400人



ペット同行の避難訓練の様子



超の参加があり、「多様で自由な雰囲気が良い」「探求の授業を受けたら」等の感想が寄せられるなど、高校の魅力は認知されつつある。授業は対話的手法で行い、全て英語で行う科目も設定するほか、「問い」に対して知識を掘り下げて「答え」を探求する活動を通して自分なりのものを見方などを認識できるように促す。

用語解説

ふじのくに国際高等学校

令和6年4月、島田市金谷根岸町に開校する県立高校。生徒自身が通学時間や時間割を決める多部制・単位制の「フレックスハイスクール」とする。探求学習を軸に思考力を養い、他者と協働して課題解決につなげる力を育てる。探求モデル校を目指す。



国際バカロレア

1968年にスイスのインターナショナルスクールで始まった学習プログラムのこと。国際的な視野で行動するため、能力やスキルを育むとともに、世界中の大学に進学する際に使える入学資格(国際バカロレア資格)を得ることで、大学進学へのルートを確保することが可能となる。

持続可能な学校給食

Q 委託先業者から突然給食の提供が停止されたが、再発防止策は。また、学校給食の重要性の認識は。
A 栄養バランスの取れた学校給食は児童生徒の心身の健全な発達に欠かせないもので、健康増進と食育推進に極めて重要である。再発防止に向け、事業者の経営状況や業務受託実績等を入札参加条件に設定した。また、過度な価格競争を防ぐための最低制限価格制度の導入に向けた調整や、価格以外の要素を考慮した総合評価落札方式の導入可能性の検討を行う。

の健全な発達に欠かせないもので、健康増進と食育推進に極めて重要である。再発防止に向け、事業者の経営状況や業務受託実績等を入札参加条件に設定した。また、過度な価格競争を防ぐための最低制限価格制度の導入に向けた調整や、価格以外の要素を考慮した総合評価落札方式の導入可能性の検討を行う。



小学校の給食時間の様子

文化・観光

富士山静岡空港の利用促進

Q コロナ禍からの回復途上にある国際線の利用促進の取り組みは。
A 上海線やソウル線が順次回復する中、台湾路線は連続チャーター便決定を契機に定期便再開に向けて働きかけを強める。県内企業が数多く進出するベトナムは観光のほかビジネス利用も期待できるため、チャーター便の実績を積み重ね、新規路線就航につなげる。空港の地上支援業務の人手不足が喫緊の課題であるため、空港関係機関による合同会社説明会の開催のほか、県も支援策を検討する。

プロ野球新球団との連携

Q ハヤテ223株式会社によるプロ野球団創設は野球による地域活性化を図る大きな機会となるが、球団との連携や地域を盛り上げる方策は。
A 県内各地で開催される公式戦の観戦や野球教室等の普及活動への県民の参加を促進するとともに、山梨県や長野県など近隣自治体に協力を働き掛け、来シーズン開幕に向け、県内外の多くの方に応援いただける環境づくりに取り組む。関係自治体や経済団体、新球団などと連携し、県民に愛される球団となるよう官民一体となって取り組む。

産業

太陽光発電の普及

Q カーボンニュートラルの実現に向けた太陽光発電の普及の取り組みは。
A 大規模な太陽光発電設備は地域住民の生活への影響が大きい。中小企業等が工場の屋根などに自家消費型設備を導入する際の補助事業等により、住宅や工場の屋根への設置を重点的に進めている。また、農地の上部空間に太陽光パネルを設置する営農型太陽光発電の導入支援や、軽量かつ柔軟で建物の壁面や曲面等にも設置できるペロブスカイト太陽電池といった新技術の活用も検討していく。

水素エネルギーの活用

Q 本県の水素関連産業の育成に向けた山梨県との研究開発拠点等との連携状況と産業の土壌づくりの方策は。
A 令和4年に企業間連携を促進する協議会に水素部会を設置し山梨大学の水素に関する人材養成講座を会員向け配信したほか、山梨県で技術研究を行う専門家を講師に燃料電池自動車の開発動向等に関するセミナーを実施した。長年の研究実績を持つ山梨県と全国有数のものづくり県である本県がそれぞれの強みを活かして連携し、新たな産業の土壌づくりに取り組む。

インドとの交流の推進

Q 著しい発展の可能性のあるインドとの交流を今後どのように進めていくか。
A インドは市場や製造拠点、人材採用の面で県内企業とのつながりが多いことから、交流の重要性を認識している。これまで県内企業の現地展開を支援するビジネスサポートデスクの設置や、インド人材を県内企業に取り込むための就職面接会の開催、インド系企業のサテライトオフィス誘致等を行ってきた。今後は地方政府や現地大学等との関係構築を図り、一層の人的・経済的交流を推進する。

くらし・環境

有害鳥獣対策の推進

Q 農林漁業や生態系に影響を与えるカワウやニホンジカへの対策は。
A カワウに対しては、河川監視カメラ等の映像から繁殖地の特定を進め、ドローンを活用し、上流から下流へねぐらを移動させる紐張りや、卵のふ化を抑制するドライアイスの投入等により駆除する。ニホンジカに対しては、捕獲範囲を広げ、生息密度の高い奥山での捕獲の強化に加え、ドローンやデジタル技術を活用した捕獲など新技術の導入を進める。また隣接県と連携し県境付近の捕獲に取り組む。



ドローンを活用したニホンジカの生息調査の様子

リニア開業後の新幹線ダイヤ編成

Q 県としても新幹線ダイヤの在り方を検討し、JR東海及び国へ申し入れるべきだが、県の所見は。
A リニア開業後のダイヤの在り方は県内外への移動だけでなく、地域経済の発展にもつながる重要な課題と認識している。今回、国の調査により、新幹線の停車回数が増加する可能性が示された。今後、沿線市町と連携し、県民の利便性の向上や交流人口の拡大を見据え、ひかりの増便などの改善要望とともに需要喚起策の検討を進め、国やJR東海に働き掛けていく。

リニア問題の解決策

Q 定例記者会見で知事が発言したリニア問題の解決策とはなにか。ルート変更を
A 「ふじのくにむすびば」で通いの場への参加を促

医療・福祉

Q 養育費の支払率は全国で28・1%と極めて低いが、養育費確保に係る取り組みは。
A 子どもの権利である養育費の確保には離婚前の対応が特に重要であることから、市町の担当者に研修を実施し、離婚届受付時にひとり親をサポートする情報提供や養育費の取り決めを確認するよう働きかけている。また、静岡県ひとり親あしんLINEや市町の相談窓口、ひとり親サポートセンターでの相談対応のほか弁護士による毎月の無料法律相談会や市役所等での出張無料相談を実施している。

健康寿命延伸に向けた取り組み

Q 外出自粛の長期化による高齢者の体力や認知機能の低下等の健康二次被害対策と、オーラルフレイル予防の取り組みの効果と課題は。
A 「ふじのくにむすびば」で通いの場への参加を促

し、通いの場の魅力向上、指導を行う専門職のスキルアップを図る。オーラルフレイル予防については正しい歯磨きの促進等により、80歳で自分の歯が20本以上ある方は平成28年度の約6割から令和4年度は約7割へ増加した。認知度の低さが課題のため、SNSの動画配信等で周知を図る。

用語解説

オーラルフレイル

オーラル(口腔)のフレイル(虚弱)という意味の造語。噛む、飲み込む、話す等の口腔機能の低下を指し、早期の重要な老化のサインと言われる。それら機能の低下により、生活に支障を及ぼしたり、滑舌が悪くなることで人や社会との関わりを減少を招くなど、全身の機能低下との深い関係も指摘されている。

静岡県健康づくり応援サイト
ふじのくに
むすびば
県民みんなが健康で、元気に暮らせるように。
そんな想いをたくさん詰めて、ぎゅっぎゅっ“むすび”ました。
健康になりたいあなたを応援します。

